

外来ザリガニの 不妊駆除手法確立のための検証

齋藤 淳也¹, 石山 信雄²

1. 北海道大学 大学院 農学院

2. 北海道大学 大学院 農学研究院



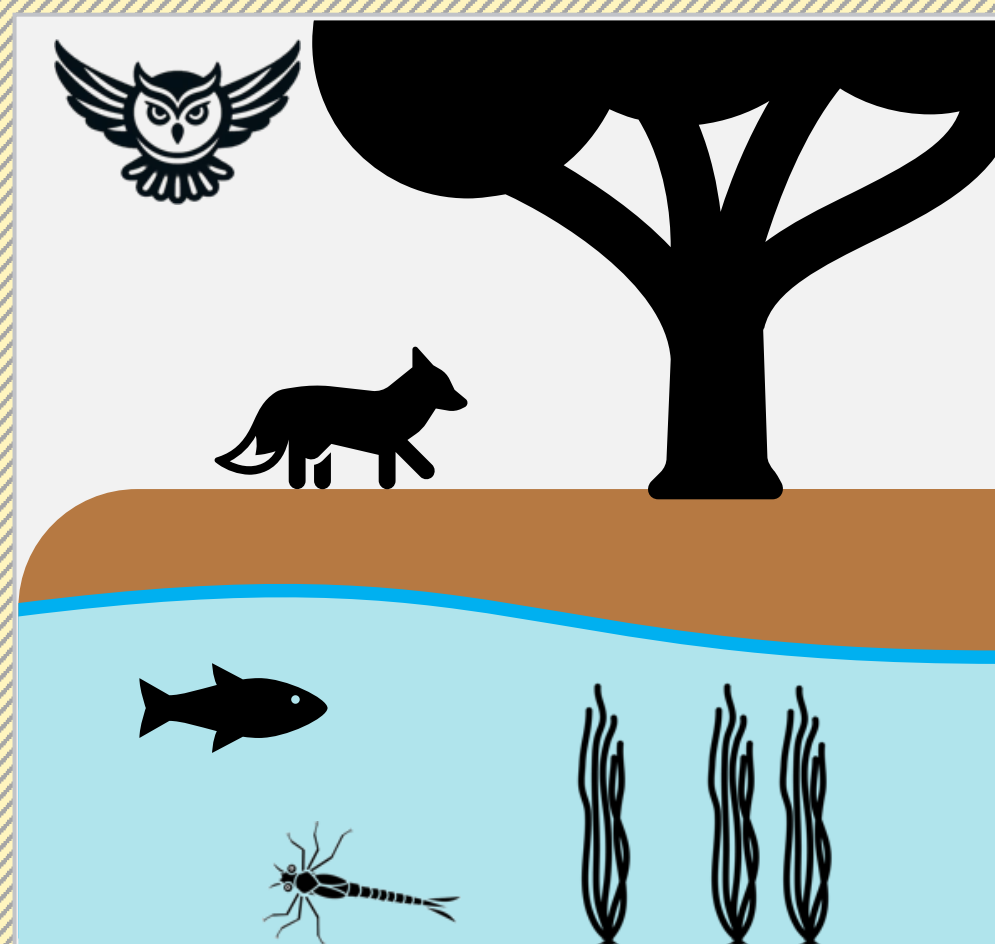
未来社会のあるべきかたち

～外来種問題を科学的裏付けのある手法で解決～

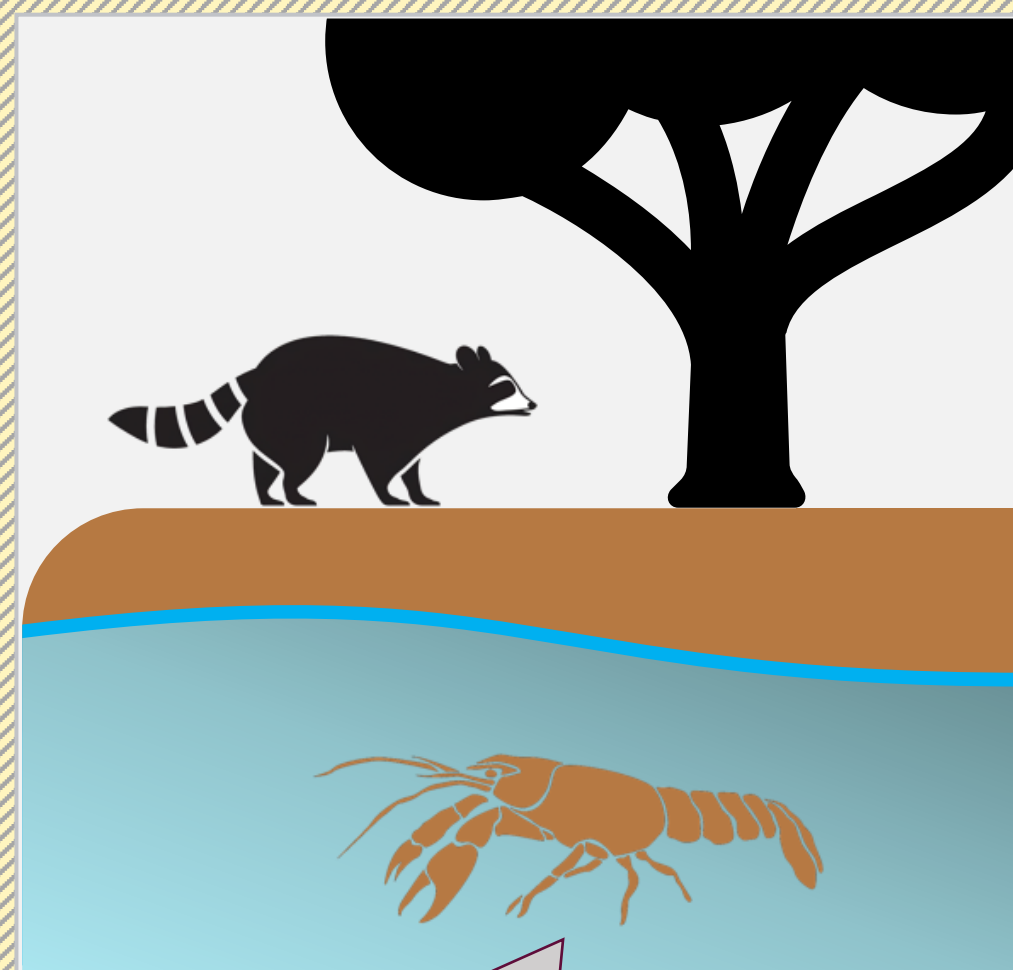
「直感的」から「理論的」な管理へ変えていこう

外来種の侵入は何を起こすの？

- 在来種を攻撃する、食べる、追い出す→生物多様性↓
- 生物多様性が支えていた生態系の機能が失われる
 - 人間のQOLが下がる^[1]



外来種
侵入



ウチダザリガニ
(外来ザリガニ)

- 特定外来生物
- 日本、欧州、米国で分布拡大中



脅威

[2]

[3]

どうやって管理すればいいの？



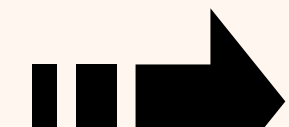
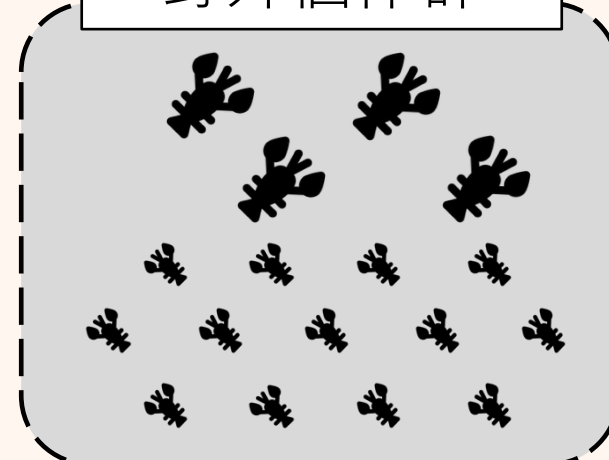
捕まえて減らせばいい？

そんな簡単じゃ無いかも...



捕獲駆除導入

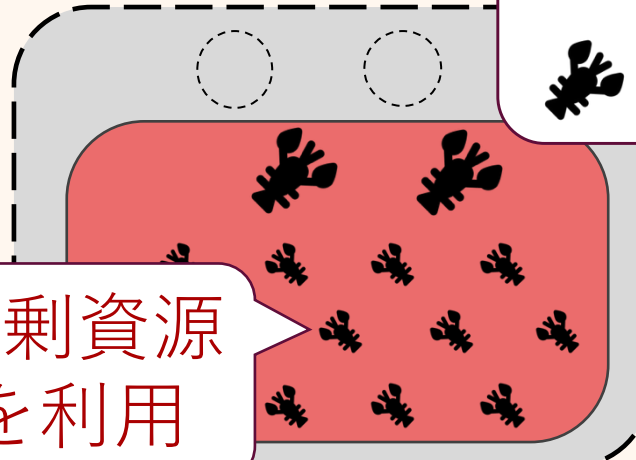
野外個体群



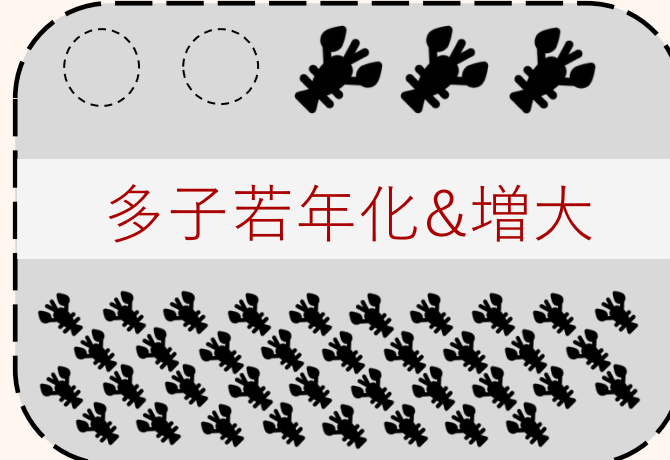
捕殺



余剰資源
を利用



多子若年化&増大

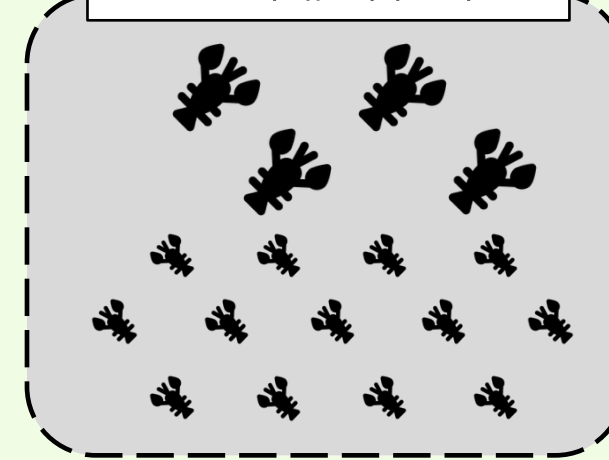


むしろ増える！！

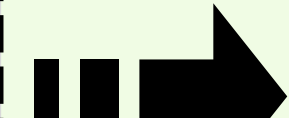
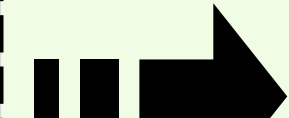
自然環境中にあるリソースと個体群の再生産を考慮したら
効率的に駆除できるのでは？

不妊駆除導入

野外個体群



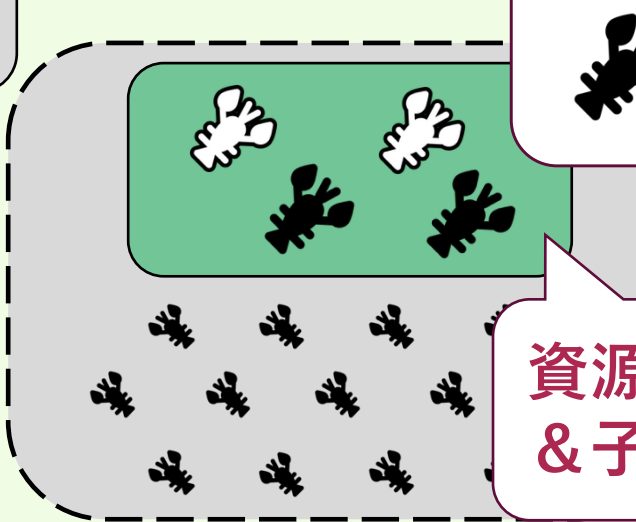
成体
幼体



不妊化



資源支配
& 子無し



少子高齢化 & 縮小



実際に検証(博士研究)



ザリガニは抱卵時に腹肢で
卵を保持する
除去で再生産阻害可能



腹肢

実験地(足寄町)



地理院地図